

夢ある一步で飛躍の年に！



重 川 秀 実

新年、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

昨年、コロナウイルスで大変な一年でしたが、皆様、落ち着いた正月を迎えられましたでしょうか。世の中の仕組みも大きく変化することを余儀なくされましたが、学会活動も多くの制限の中、模索の日々でした。しかし、支部や各事業の委員会による新しい試みの中、これまでにない路が拓け、光が見えたのも確かです。在宅勤務やオンラインでの会議、試験などの取り組みは、業務の効率化や遠方からの参加を容易にし、プラスの面を引き出すことができたように思います。講演大会では、オンラインでの講演に加え、いろいろな工夫を凝らしたバーチャル空間での業者展示開催にたどり着きました。昼夜を問わずメールが飛び交う日が続き、表には現れない関係者の努力には、本当に頭が下がるばかりです。学会活動の国際化も重要な課題ですが、シンポジウムでは海外からの講演者によるプログラムが準備され、オンラインの仕組みを活用する企画が進められました。また、市民講座にかわる YouTube での楽しい動画配信が好評を得たのも記憶に新しいことと思います。マイページの準備も進み、情報管理の一元化や各種事業のカード決済も可能になりました。いずれも、皆様の協力無くしては成り立たなかったことで、心より感謝します。

さて、年が明け、さらなる挑戦の始まりになります。今年は、ISSS や、部会による国際会議も企画されており、来年、2022 年には、札幌で IVC-22 (22nd International Vacuum Congress) も開催されます。表面真空の科学技術は、分野を超えた、また、分野を繋ぐ中で更なる可能性を生み出す領域であり、幅広く日々の生活につながることから、幸せな未来を創造する力にもなります。当学会が創出する世界の大切さ、その役割は、ますます期待され、強く求められることでしょう。

合併後の組織の調整も、まだ過渡期ではありますが、お互いを補い良い刺激を受けながら基盤が整ってきたように思います。将来、今この時を振り返った目に、大変な時期を無難に乗り越えたという満足ではなく、夢ある可能性を拓いた自信の輝きが映るよう、胸を張れる大きな一步を踏み出せましたら！

(筑波大学数理物質系)